

公益財団法人大倉精神文化研究所 令和6年度事業報告書

公益財団法人大倉精神文化研究所(以下「研究所」という。)は、創立者である大倉邦彦が掲げた「世の為に田を耕す」という理念と、定款にある「心豊かな国民生活の実現」に資するという目的を実現すべく、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の3つの柱からなる「令和6年度事業計画」を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

特に、(1)デジタルアーカイブ(貴重資料の画像閲覧サービス)における公開資料の充実と共に、(2)NDLサーチ(国立国会図書館サーチ)並びにジャパンサーチとの提携、(3)貴重コレクションの書誌データの作成促進及びOPAC公開を、重点に置きながら実施しました。

Ⅰ 精神文化の研究及びその成果の普及

令和6年度も、(1)実用の学、(2)東西文化融合、(3)創立者及び研究所関連資料の三つの観点から精神文化の研究を進めるとともに、講演会や展示会の開催、印刷物の編集及び発行、電子情報の発信等を通して成果の普及に努めました。

(Ⅰ) 実用の学の研究及びその成果の普及

研究所の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたいと考え、研究所を創立しました。そこで、令和6年度は「世のために田を耕すー実業家の教育・福祉活動ー」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景について研究を進めました。

また「波濤を越えた近代日本人たちー体験と葛藤が生んだ社会変革への歩みー」をテーマに、幕末から昭和期において、海を渡った日本人が海外で得た経験がその人物の生涯にどう影響を与え、そして日本の発展と社会変革をどう後押ししたかについての研究に着手しました。

【大倉山講演会】

研究成果の一部は、横浜市大倉山記念館の指定管理者との共催事業として開催した大倉山講演会で公開するとともに(表-1「大倉山講演会」参照)、『大倉山論集』第71輯の特集にて発表しました(後掲、4頁「1(4)ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行」)。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第103回	4月13日 横浜市大倉山記念館 第4集会室	大倉邦彦の教育事業 －富士見幼稚園から精神文化研究所へ－	林 宏美	30人
第104回	5月18日 横浜市大倉山記念館 ホール	日本女子大学創業者・成瀬仁蔵と森村市左衛門	片桐芳雄	49人
第105回	6月15日 横浜市大倉山記念館 ホール	救貧から防貧へ －養育院経営が導いた渋沢栄一の福祉観－	宮本孝一	63人
第106回	3月22日 横浜市大倉山記念館 ホール	幕末維新期の「近代」「伝統」再考 －西周と津田真道を手がかりとして－	谷口眞子	48人

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者の大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当研究所を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を回った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで令和6年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。

【公開講演会】

研究成果の一環として、公開講演会を3回開催しました(表-2「公開講演会」参照)。

<表-2「公開講演会」>

■共催：愛知大学

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第19回	7月6日 横浜市大倉山記念館 ホール	東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア	加納 寛	35人

■主催

回	開催日	演 題	講師	参加人数
—	11月16日 横浜市大倉山記念館 ホール	タゴール10の物語 －東ベンガル時代のタゴール－	奥田由香 西岡直樹 大西正幸	72人

■共催：岡倉天心市民研究会

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第10回	1月11日 横浜市大倉山記念館 ホール	岡倉由三郎にとっての兄・覚三(天心) －生きられた近代日本－	平田諭治	45人

(3)創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。また、令和4年度にデジタルアーカイブの環境を整備し、ホームページを改訂したことで、所蔵する原資料のデジタル化画像や音声、映像をインターネットでより多く公開することが可能となりました。

そこで令和6年度は、以下のような事業を進めました。

ア 研究所沿革史資料の調査・整理

研究所には、設立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡・葉書が大量に現存しており、これらを研究所沿革史資料(以下「沿革史資料」という。)としてまとめて管理しています。

令和6年度もこれらの調査・整理及び登録作業を引き続き実施し、令和7年3月末現在、沿革史資料のデータベース登録点数は119,960点(うち、書簡20,817点、葉書14,616点)になりました。

また、大倉精神文化研究所附属図書館の書庫にある未整理資料のうち、特に大倉邦彦旧蔵雑誌の調査・整理を行いました(第一期3年計画の3年目)。

イ 研究所沿革史資料のデジタル化

沿革史資料には様々な形態の資料があり、また外部機関よりの閲覧利用や借用依頼等も増えています。そこで原資料の現状維持・保存と国内外への情報提供の観点から、デジタルアーカイブの公開を進めています(後掲、5頁「1(4)ウ ①デジタルアーカイブ公開の充実」参照)。その前提作業として、各資料のデジタル化作業を実施しました。

令和6年度は、特に、大倉邦彦自筆の書や富士見幼稚園関係の資料、そして所蔵する写真アルバムのうち、大倉邦彦による大正15年(1926)の欧州視察に係るアルバムのデジタル化作業を進めました。

ウ アナログ音源のデジタル化事業【特定費用準備資金：貴重コレクション書誌データ作成・公開事業積立資金】

研究所は、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、これらの経年劣化は著しく、また再生機器も入手し難くなりつつあります。

令和6年度は、研究所が主催した修養会に係るSPレコード17枚をデジタル化し、これによりSPレコードのデジタル化は完了しました。

エ 研究所沿革史資料目録のOPAC公開

沿革史資料に関し、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えているため、平成30年度(2018)より細目録を採り、目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」用のデータに変換し、O

PAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めています。

令和7年3月末現在、OPACで公開している沿革史資料の書誌データの総数は63,369点になりました(後掲、9頁「3(2)ア ③研究所沿革史資料の書誌データ公開」参照)。

オ 資料展の開催

資料調査や研究成果公開の一環として、研究所資料展2回、特別資料展5回開催しました。(表-3「資料展」参照)

<表-3「資料展」>

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第25回特別資料展 横浜市港北図書館	3月8日～4月17日	横綱武蔵山と昭和初期の相撲資料展	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません
第26回特別資料展 横浜アリーナ	4月20日	横綱武蔵山と昭和初期の相撲資料展	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません
第49回研究所資料展 横浜市大倉山記念館ギャラリー	8月3日～31日	純真な子女の心田を耕す －目黒の幼稚園から大倉山の研究所へ－	423人
第27回特別資料展 横浜市港北図書館	10月2日～29日	横浜市大倉山記念館の魅力 －横浜市大倉山記念館開館40周年記念－	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません
第50回研究所資料展 横浜市大倉山記念館第6集会室	11月1日～4日	横浜市大倉山記念館の魅力 －開館40周年記念－	153人
特別資料展 横浜市大倉山記念館第7集会室	11月1日～3日	大倉山秋の芸術祭40年の歩み	83人
第28回特別資料展 横浜アリーナ	11月30日	港北区のシンボル・横浜市大倉山記念館 －港北区の歴史をもっと知ろう－	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう、精神文化及び地域における歴史・文化の研究成果を広く国民全体に公開普及する手段として、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

3月に、『大倉山論集』第71輯(A5判 389頁 470部)を発行しました。

<表-4『大倉山論集』第71輯 目次>

特集 世のために田を耕す－実業家の教育・福祉活動－	
特集にあたって	公益財団法人 大倉精神文化研究所
大倉邦彦の教育理念－富士見幼稚園から大倉精神文化研究所へ－	林 宏美
日本女子大学創立者・成瀬仁蔵と六代森村市左衛門 －森村豊明会による支援－	片桐 芳雄
救貧から防貧へ－養育院経営が導いた渋沢栄一の福祉観－	宮本 孝一
論説	
東亜同文書院生たちが見た二〇世紀前半のアジア	加納 寛

戦時期日本の「産業報国精神特別講義」 －文部省による「産業報国運動」への参画－		上久保 敏
覚書		
室町幕府奉公衆浜名氏の基礎的研究		小林 輝久彦
大倉邦彦の経営再建手腕について－経営学の視点からの考察－		脇 拓也
資料紹介		
史料翻刻 木下韓村日記(十)－⑤		木下韓村日記研究会
翻刻 大倉精神文化研究所「日誌」(大正一四年～昭和九年)[中]		公益財団法人 大倉精神文化研究所
報告		
第三十三代横綱・武蔵山の足跡をたどる(一) －第二十五回特別資料展の報告を兼ねて－		公益財団法人 大倉精神文化研究所
受贈図書一覧		
所報		

イ 各種リーフレット等の編集・発行

研究所の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果をも高めるために、研究所の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行しました。

ウ 電子情報の発信

近年、インターネットを通じた電子情報の公開の重要性が進んでいます。そこで研究所でも、所蔵資料の更なる活用、参照を促すべく、所蔵資料のデジタル化作業(前掲、3頁「1(3)イ 研究所沿革史資料のデジタル化」「1(3)ウ アナログ音源のデジタル化事業」参照)と並行して、インターネットでの公開を推進しています。

令和6年度は、特に以下に掲げる3つの事業の実施に重点を置きました。

① デジタルアーカイブ公開の充実

令和6年度は、(1)富士見幼稚園関係の映像2点と、(2)所蔵する大倉邦彦の揮毫71点のデジタルデータを公開しました。

② NDLサーチ(国立国会図書館サーチ)及びジャパンサーチとの提携

令和6年11月にNDLサーチと、また12月にジャパンサーチとの提携を開始しました。これによって、他機関との情報共有がより進み、また外部からのアクセスがさらに増加することが見込まれます(後掲、9頁「3(1)ウ② インターネットの活用」参照)。

③『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

研究所の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学研究の成果として、令和5年度に『大倉山論集』第70輯を刊行しました。これを誰でも閲覧できるように、5月にPDFで公開しました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

令和6年度も、港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル

等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及に努めました。

(1) 他機関との連携事業

大倉山こどもフェスティバル実行委員会、港北図書館友の会、横浜市大倉山記念館指定管理者等の6団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました。

<表-5「共催等の事業」>

時期	主催団体・機関名	連携事業
5月4日	大倉山こどもフェスティバル 実行委員会	「第40回大倉山こどもフェスティバル」を後援
8月31日	港北図書館友の会 横浜市港北図書館	「講演会」に協力
10月6日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデイ」に協力
10月30日 ～11月4日	大倉山秋の芸術祭実行委員会	「第40回大倉山秋の芸術祭」を後援
11月30日	株式会社横浜アリーナ	「2024秋のヨコアリくんまつり」に協力
2月12日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデイ」に協力

(2) 講師派遣

横浜市港北図書館等の7団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました。

<表-6「講師派遣」>

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
4月29日	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	シンポジウム「稀才・江藤新平の真に迫る」 パネリスト(星原大輔)
6月22日	鶴見川舟運復活プロジェクト	大山信仰と鶴見川流域の生活(平井誠二)
8月31日	横浜市港北図書館	本屋さんに本が並ぶまで ～知られざる出版流通の世界～(小股昭)
9月6日	港北ボランティアガイドの会	港北区内の歴史ガイド(平井誠二)
9月14日	明治維新史研究会	シンポジウム「江藤新平の“人権”思想－その根 源を探る－」基調講演・パネリスト(星原大輔)
10月17日	横浜市立師岡小学校	師岡・樽の昔ばなし(平井誠二)
10月28日	横浜市立新羽小学校	新羽の魅力について(平井誠二)
10月19日	鶴見川舟運復活プロジェクト	注連引き百万遍の大蛇作り(平井誠二)
11月16日	鶴見川舟運復活プロジェクト	全国各地に伝わるワラ蛇作り(平井誠二)

(3) 依頼原稿の執筆

ASA大倉山等の2団体・機関発行の情報紙や学術雑誌等へ14本の原稿を執筆し、掲載されました(別紙、「附属明細書」1頁参照)。

(4) 調査協力・記事掲載

調査協力した研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事や研究所主催イベントの紹介が、『新横浜新聞』等の19新聞・雑誌・ウェブサイトで47記事が掲載され、また調査協力した番組の放送・公開が8件ありました(別紙、「附属明細書」1-3頁参照)。

(5) 資料の寄贈

13名から、以下の通り、研究所や大倉山記念館、周辺地域に係る資料の寄贈を受けました。

- ① 4月4日、磯貝様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ② 4月6日・5月4日・7月13日・9月10日・11月4日、1月10日、1月21日、3月8日、寺田様より研究所及び地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ③ 4月17日、中西様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ④ 6月5日、長谷川様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑤ 6月5日、伊藤様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑥ 6月22日、江上様より旧制高等学校に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑦ 8月21日、鈴木様より研究所沿革史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑧ 10月31日、相澤様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑨ 10月31日、遠藤様より港北区地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑩ 2月4日、小股様より地域史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑪ 2月4日、深谷様より大倉洋紙店に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑫ 2月4日、高橋様より地域史に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑬ 2月12日、増田様より大倉邦彦に関する資料の寄贈を受けました。

(6) 見学案内

団体・個人(19件、延べ223名)からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を実施しました。(別紙、「附属明細書」3頁参照)

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

大倉精神文化研究所附属図書館(以下、「当館」という。)は、創立者である大倉邦彦が心豊かな社会の実現と東洋と西洋の精神文化の融合を目指して設立した専門図書館です。一方で誰でも自由に利用できる私立の公共図書館としての性格も有しています。

令和6年度も図書館を広く一般に公開するとともに、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館の実現に努めました。

(1) 附属図書館の運営

当館は、創立者大倉邦彦が目指した東洋と西洋の精神文化の融合を追及する専門図書館として、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約110,000冊の蔵書を有しています。その中でも、神道・儒教・仏教等の資料群や貴重コレクションは、全国的にも学術価値の高い資料です。当館はそれらを誰でも自由に利用出来る図書館として高く評価されています。令和6年度も、より一層充実した図書館サービスの提供と、利用者にとって快適で安全な環境整備を進めました。

ア 附属図書館の公開

当館は、原則として毎週火曜日から土曜日まで週5日一般公開しました（開館時間は、午前9時30分から午後4時30分まで）。横浜市大倉山記念館や地域に根差した催事に合わせ、6回の臨時開館も実施しました（別紙、附属明細書3頁参照）。

入館者数は前年度より1,000人以上増加し、レファレンス件数も増加しました。（表-7「図書館利用の実績」参照）。

<表-7「図書館利用の実績」>

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
開館日数	251日	247日	248日
入館者数	5,837人	4,765人	5,111人
貸出カード登録者数(累計2,358人)	194人	188人	201人
図書貸出数	4,648冊	4,656冊	5,745冊
閉架図書閲覧者数	74人	88人	90人
閉架図書閲覧冊数	379冊	439冊	219冊
複写枚数	1,399枚	597枚	678枚
レファレンス件数	134件	119件	57件
蔵書検索アクセス数	2,148,780件	2,871,737件	1,494,802件
館内見学	61回/352人	44回/344人	15回/150人

イ 資料の収集

当館は、精神文化に関する資料、特に神道・儒教・仏教や歴史の専門的資料に重点を置いて収集しています。さらに、一般利用者にも読みやすい入門書・教養書、小・中学生から一般の方までを対象とした「やさしく読める心の本コーナー」（子ども向け精神文化図書コーナー）の図書、専門機関や大学発行の雑誌資料等も収集しています。

令和6年度は、新たに1,228冊(点)の図書を収集・整備し、OPACで公開しました(表-8「受入図書実績」参照)。うち59冊は、「やさしく読める心の本コーナー」として配架しました。

<表-8「受入図書実績」>

	令和6年度			令和5年度		
	購入	寄贈	(小計)	購入	寄贈	(小計)
閉架図書	14	353	367	18	287	305
開架図書	529	332	861	533	288	821
(小計)	543	685	1228	551	575	1126

AV	0	0	0	0	4	4
(合計)	543	685	1228	551	579	1130

令和6年度末蔵書冊数：図書・AV資料総数：110,106冊・点

(閉架書庫84,600冊・開架図書25,277冊・AV資料229点)

ウ 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

① レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が求められています。質問や相談内容によっては、研究部とも連携し、利用者のニーズに応えるレファレンスサービスの提供に努め、令和6年度は134件のレファレンスに対応しました。また、他機関との情報交換、連携を深め、情報提供能力の向上を図りました。

② インターネットの活用

当館では、利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧・複写申込等、図書館サービスの提供にインターネットを活用しています。

令和6年度は、NDLサーチ、ジャパンサーチとの連携を開始し、当館の所蔵資料が国立国会図書館などの検索ページから確認できるようになりました(前掲、5頁「1(4)ウ② NDLサーチとの提携」参照)。

(2) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

精神文化の専門図書館である当館は、一般資料に加えて24種類に及ぶ貴重コレクションを所蔵しています。貴重コレクションは、①開館に先立ち大倉邦彦が収集した資料、②大倉邦彦の人脈をもとに受贈又は購入した資料、③研究過程で収集した資料に大別できますが、その大半は他館では所蔵していない貴重な資料群です。これらの資料へのアクセス性向上と永続的な利用を可能とするため、書誌データの作成・整備と適切な資料保存環境の整備に努めました。

ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

貴重コレクションは、平成25年度から独自に書誌データの作成を進めており、24種類のコレクションのうち、令和6年度までに、18コレクションについては OPAC 検索を可能にしました。残りのコレクションについても、次のように継続して書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実に努めます。令和6年度は、次に掲げる3つの事業を実施しました。

① 大倉邦彦旧蔵文庫の整備

令和3年度から開始した、一般資料に分類されていた大倉邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データの整備を継続して進めました。(第2期5年計画の4年次目)

② 書誌データ整備の継続【特定費用準備資金：貴重コレクション書誌データ作成・公開事業積立資金】

令和6年度は、岩波茂雄寄贈書、葛巻常四郎寄贈書、松井等旧蔵文庫のデータ整備を継続し、新たに根本剛蔵寄贈書の書誌データ整備に着手しました。

③ 研究所沿革史資料の書誌データ公開

令和6年度も研究所沿革史資料の書誌データ公開を進め、その総データ数は63,369件と

なりました(前掲、3-4頁「1(3)エ「研究所沿革史資料目録OPAC公開」参照)。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名といった最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を継続的に進めています。

令和6年度は、閉架書庫内に残る簡易書誌データのうち、3,593冊の詳細化を行いました(10年計画の8年次目)。

ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピー(電子式複写)を禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料は司書によるデジタル撮影を行っています。

令和6年度は、大学・研究機関・研究者等からの複写依頼を受け、貴重コレクションの名古屋大周寺文庫『金剛宝戒訓授章』『念仏利益抄』『梅田元女得脱記』『離心尼得脱記』『二尊院不断念仏勧進縁起』、古文書古記録影写副本『拾珠抄』、大名榊原家文庫『後深草院御仏事記』12件411枚の撮影を行いました。

エ 資料の保全

当館の貴重コレクションは、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことは当館の重要な役割の一つです。

令和6年度は貴重資料の保全のため、下記の事業を実施しました。

① 書庫内環境の整備

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではないため、書庫内換気のサーキュレーター稼働、防虫のための粘着マット使用、ホコリ・カビの除去作業等により、資料の保全に適した書庫内環境の整備を年間通して行いました。

② 資料保存箱の作成【特定費用準備資金：第2期資料保存箱設置事業積立資金】

ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、大名榊原家文庫202個(累計1,992個)を作成しました。また、前年度に引き続き、保存箱作成と配架作業を専門業者にも委託し、293個(466冊)の保存箱作成・配架を実施しました。

(3) 利用促進のための広報活動

精神文化の専門図書館、市民利用施設内の公共図書館である当館を広く周知し、新規利用者を開拓するため、広報活動を行いました。

ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめた利用案内リーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行っています。令和6年度は、令和3年度に開設した「やさしく読める心の本コーナー」の利用拡大のため、子ども向けの利用案内を新たに1,000部制作しました。

イ ホームページでの情報発信

HP上で新着本・おすすめ本の紹介を毎月2回掲載し、年間を通して資料展示・催し物の案内を随時更新して、情報発信を行いました。新たに制作した子ども向け利用案内も掲載しました。

ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧利用や貸出の促進を目的として、閲覧室内の小スペースや展示ケースを活用し、所蔵資料を紹介する資料展を行いました。

① 図書館資料展

令和6年度は、貴重コレクションを主な展示品とする「図書館資料展」を計4回開催しました(表-9「図書館資料展」参照)。このうち第41回はタゴール月間、第42回は富士見幼稚園の創立100周年、第43回は大倉山記念館開館40周年の記念展示としました。

<表-9「図書館資料展」(第1閲覧室内展示ケース・入口展示ケースに展示)>

回	タイトル	期 間	入場者数
第41回	詩聖タゴールの父と祖父 —寄贈されたブラフモ・サマージ関係文献から— (寄贈された183冊の中からタゴールの父と祖父の伝記を紹介)	4月2日～7月23日	1,578人
第42回	道歌コレクションより—教訓の和歌『いろは歌』 (富士見幼稚園の創設100周年に合わせて教育及び子どもに関連する資料を紹介)	7月24日～9月28日	515人
第43回	大倉精神文化研究所附属図書館のあゆみ (大倉山記念館開館40年目に合わせて設立から現在の一般公開となるまでの附属図書館のあゆみを紹介)	9月28日～12月27日	1,470人
第44回	大倉邦彦旧蔵文庫より—穏やかで温かみのある書画— (大倉邦彦所蔵の資料から優しい色彩の書画を選んで紹介)	1月4日～4月30日	2,301人 (1/4～3/31)

② 図書館ミニ展示会

図書館ミニ展示会では、当財団で開催している講演会、大倉山秋の芸術祭での図書館企画ワークショップ等に合わせて、各イベントの広報や内容理解を深めるため、貸出可能な資料を中心に紹介しました。身近なテーマの資料展示を含め、計9回開催しました。(表-10「図書館ミニ展示会」参照)。展示した資料はどれも貸出可能としており、多くの利用がありました。

<表-10「図書館ミニ展示会」(第1閲覧室内に展示)>

回	タイトル	期 間	入場者数
第48回	図書館で学ぶ豊かな心 大倉邦彦の想い&子どもの教育 (4月13日開催の大倉山講演会『大倉邦彦の教育事業』に合わせて、教育関連図書と大倉邦彦関連資料を紹介)	4月4日～4月26日	260人
第49回	図書館で学ぶ豊かな心 女子高等教育に込められた思い (5月18日開催の講演会『日本女子大学創立者・成瀬仁蔵と森村市左衛門』に合わせて、図書館所蔵の関連図書を紹介)	4月27日～5月25日	716人
第50回	図書館で学ぶ豊かな心 渋沢栄一と養育院 (6月15日開催の講演会『渋沢栄一と養育院』に合わせて、図書館所蔵の関連図書を紹介)	5月28日～6月27日	329人
第51回	図書館で学ぶ豊かな心 東亜同文書院と大旅行 (7月6日開催の愛知大学・大倉精神文化研究所共催講演会『東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』に合わせて関連図書を紹介)	6月27日～8月31日	509人

第52回	図書館で学ぶ豊かな心 日本の伝統文化「包む」と「結ぶ」を学ぶ (秋の芸術祭で図書館が開催するワークショップ関連資料の紹介)	9月3日～11月13日	868人
第53回	図書館で学ぶ豊かな心 タゴールの10の物語』出版記念講演会関連展示ーラビンドラナート・タゴール (11月16日開催の「タゴール10の物語」出版記念講演会に合わせて関連図書を紹介)	11月14日～12月12日	620人
第54回	図書館で学ぶ豊かな心 兄・岡倉覚三(天心)と弟・由三郎 (1月11日開催の『岡倉由三郎にとっての兄・覚三(天心)』に合わせて関連図書を紹介)	12月13日～1月30日	440人
第55回	図書館で学ぶ豊かな心 近代日本啓蒙思想家 西周と津田真道 (3月22日開催の講演会「幕末維新期の「近代」「伝統」再考ー西周と津田真道を手がかりとしてー」に合わせて関連図書を紹介)	3月1日～3月25日	415人
第56回	図書館で学ぶ豊かな心 大倉家三代(孫兵衛・文二・邦彦)の理念 (4月12日開催の講演会「大倉家三代ー孫兵衛・文二・邦彦ーの異文化体験ー企業理念と人材育成、そして研究所創立へー」に合わせて関連図書を紹介)	3月26日～5月16日	72人 (3/26～31)

エ 大倉山秋の芸術祭

大倉山秋の芸術祭は、多くの市民が訪れることから、当館を広く知ってもらう機会と考え、開催期間中の11月3日(日・祝日)と11月4日(月)は臨時に開館し、来館者へは100周年に向けて作成した記念しおりを配布しました。

また、令和6年度は、縁起物である水引の歴史、色や本数、結び方の意味などを参加者が学びながら、実際に水引を作成する図書館ワークショップを開催し、関連資料の展示も行いました(表-10「図書館ミニ展示会」参照)。

当館の入口には除籍本等による「リユース文庫」を設置し、市民の読書活動の推進と資料の有効活用を図りました。これにより、112冊の本が市民の皆様の手に渡り、再活用されました。

オ 記念しおりの作成

令和14年度(2032)の創立100周年に向けて、『日本精神文化曼荼羅』とそこに描かれている先哲を紹介するしおりを合計12種類作成し、図書館及びその設立趣旨の周知と読書意欲の向上による利用促進を図ります。

令和6年度は、第一弾(初回)として「聖徳太子」のしおりを400枚作成し、大倉山秋の芸術祭等のイベントで配布しました。

カ 図書館総合展

図書館総合展は、毎年全国の図書館や関連企業・団体が参加する図書館業界最大規模の催しです。令和6年度は、11月5日から7日にパシフィコ横浜での会場開催、11月16日から24日までオンライン開催が実施され、2形式での開催となりました。当館は、主催者の企画による「会期前後の見学会・視察受け入れキャンペーン」に参加し、11月8日に見学者3名を受け入れました。また、職員2名が展示会場へ出張し、他館や専門業者等との交流・連携を深めるとともに、有益な情報を収集する機会を得ました。

キ 外部機関との連携

港北区役所や港北図書館、姉妹図書館提携を結んでいる佐賀県の神埼市立図書館、その他関

係機関等と連携して、読書活動推進や広報活動に取り組みました。

- ① 4月27日～10月31日、NPO法人鶴見川流域ネットワーク主催の「バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー」に、スタンプとシートの設置場所として協力しました。
- ② 5月4日、大倉山こどもフェスティバル実行委員会主催の「第40回大倉山こどもフェスティバル」で、しおり作りを行いました。
- ③ 10月6日、大倉山記念館指定管理者との共催による「大倉山記念館オープンデイ」で臨時開館を実施し、「レトロな本」を展示しました。
- ④ 11月21日、佐賀県神埼市から教育長一行の来訪、1月16日、市会議員の来訪があり、姉妹図書館交流事業の活性化について懇談を行いました。
- ⑤ 11月27日、国立国会図書館サーチと連携を開始し、164,000件のデータを提供しました。
- ⑥ 12月8日、大倉山こどもフェスティバル実行委員会主催の「第40回小さな丘のメリークリスマス」に合わせて臨時開館を実施し、子ども向けに絵本の読み聞かせを行いました。
- ⑦ 12月23日、ジャパンサーチと連携を開始しました。
- ⑧ 2月22日、23日、大倉山観梅会実行委員会主催の「第37回大倉山観梅会」に合わせて臨時開館を実施し、梅の絵の展示を行いました。22日は319名、23日は531名、計850名の来館者がありました。

